

『海紅』（山崎聰第一句集）より

櫓馬のたてがみ短かきも灯る
死ぬときがきて一枚の魚に雪
雪降るや乾きてふぐりのごときもの
枯落葉松うしろ通れば声がして
卵割ってふるさごとば寒きかな
壺買ってその深き眼の二月かな
雪降り今日のつづきの明日にて
冬怒濤鴉あつまり人散らむ
墓標かたむくその砂山のさむき砂
空寒くなる銃身を水平に

松村五月 抄出